

会 議 録

会議の名称	こまき新産業振興センター運営協議会					
開催日時	令和5年8月3日(木) 午後2時30分～午後4時00分					
開催場所	小牧市役所本庁舎3階 301会議室					
出席者及び欠席者	<p>【委員】</p> <p>○出席者</p> <p>森岡孝文（中部大学 経営情報学部 教授）</p> <p>瀬崎恭弘（中小企業基盤整備機構 中部本部 企業支援部長）</p> <p>兼松啓子（あいち産業振興機構 理事長）</p> <p>矢橋英明（株式会社関ヶ原製作所 代表取締役社長）</p> <p>【事務局】</p> <p>辻中正直（こまき新産業振興センター センター長）</p> <p>三品克二（地域活性化営業部次長）</p> <p>久田雅樹（商工振興課長）</p> <p>宮本智成（商工振興課 新産業創出係長）</p> <p>多田 匠（商工振興課 新産業創出係主事補）</p>					
傍聴の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 否	傍聴定員	3名	傍聴人数	0名
会議次第	<p>1 令和4年度事業実績について</p> <p>2 令和5年度事業計画及び活動実績について</p> <p>3 その他</p>					
問合せ先	小牧市役所 地域活性化営業部 商工振興課					
会議内容	別紙1参照					

会 議 内 容

【事務局久田】

本日は、大変お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。定刻となりましたので、ただ今より、令和5年度こまき新産業振興センター運営協議会を始めさせていただきます。

本日の進行は、冒頭の部分のみ、この会議の事務局であります地域活性化営業部 商工振興課の久田が務めさせていただきますので、よろしくをお願いいたします。

本会議は公開としており、傍聴人数は0人です。

まず初めに、本協議会委員につきましては、今年度は特に変更なく、お手元の参考資料のとおり昨年度に引き続き皆様にご就任頂いております。

また、こまき新産業振興センターの運営体制についても、令和4年度の運営体制と変更はなく、辻中センター長を含めて、コーディネーター3名体制で運営している状況です。

会に先立ちまして、令和4年度に改定いたしました「小牧市企業新展開支援プログラム」について、お手元にお配りしておりますプログラム概要版に沿ってセンターが該当する部分を中心にご説明させていただきます。

企業新展開支援プログラムは、小牧市の産業振興の基本的な方向性と事業者への補助制度などの具体的な支援策をまとめたプログラムで、令和4年度に改定し、今年度から運用しております。

1 ページ目では、小牧市の産業特性のデータをまとめて掲載しております。

2 ページ目では、プログラム改定にあたり約2800社に事業者アンケートを実施し、約800社から回答いただいた結果とそれを踏まえた本市の産業振興の課題を5つ設定いたしました。

3 ページ目をご覧ください。その課題を元に、産業振興の基本理念と体系を整理しております。基本理念として、「アフターコロナの持続可能な社会を支える産業・経済の確立」を掲げ、4つの戦略を置いております。こまき新産業振興センターの役割としては、下の図にある通り、生産性革命の推進、成長産業への参入促進、新事業展開の促進の3つの柱を軸にして、市の施策とも連携して企業を支援していくこととしております。

4 ページ目をご覧ください。具体的な取組みとしては、29の補助制度を含む計36項目で構成されております。

最後に裏表紙をご覧ください。推進体制として、市と小牧商工会議所

で共同設立したこまき新産業振興センターは市と共に、本プログラムの推進に取り組むものとし、会議所や大学、各専門機関とも連携しながら推進していくことと位置付けております。以上で、簡単ではございますが、小牧市企業新展開支援プログラムの説明とさせていただきます。

それでは協議会設置要綱第3条第2項の規定により、以後の議事進行は会長にお願いしたいと思っておりますので、森岡会長よろしくお願いたします。

【森岡会長】

この協議会はこまき新産業振興センターの事業の取組内容の確認や効果の検証等を行うため開催されるものであります。こまき新産業振興センターのより良い運営、ひいては小牧市の産業振興にも繋がる重要な場ですので委員の皆様には活発なご意見をいただきますようお願いいたします。

それでは、1の議題に入ります。事務局より説明を求めます。

【辻中センター長】

こまき新産業振興センター長の辻中です。私から昨年度の事業実績について、資料1に沿って説明させていただきます。

令和4年度はまだコロナの影響も残っておりましたが、企業訪問については、受け入れ可能な状況になってきております。訪問につきましては、センター設立から4年経ち、現在約400社カバーしており、新規については、24社訪問いたしました。また、継続は181社訪問し、3つの分野ほぼ均等に分かれております。ただ、成長分野では、当初定義していた宇宙航空機産業の枠を少し広げて、EVや医療など新しい枠もサポートしております。訪問以外にも情報発信としてセミナーを開催しており、その時々企業の関心のあるテーマで行っております。電力、ガスの高騰により生産性を上げていかなければいけないということから「電力消費見える化とマネジメントセミナー」や人手不足を解消する「AIを活用した画像検査セミナー」などを行いました。また、11月1日には幅広く市民の方にセンターの活動を紹介するということで「こまき産業振興ミーティング」を開催し、事例や新展開支援プログラムの紹介などを行い、96名の方にお越しいただきました。その他にワークショップとして、「D2Cセミナー」を行い、企業様がデザイナーとコラボして商品開発し、実際に今年度クラウドファンディングに出品しております。

新事業展開による新たな取引件数としては、中小機構のマッチングサイトやふるさと納税等により目標42件に対し結果37件で達成率88%となっております。

生産性を年3%以上向上させた企業数としては、A社が手作業の生産日報からIOT導入によるデジタル化を行うなど、目標8件に対し結果4件で達成率50%でした。まだまだ目標を達成できていないため、もう少し効率的にできるよう今年度は頑張ってもらいます。

成長産業分野への新規参入企業数としては、金属プレス金型というものの需要が減ってきている中、B社が芝浦工業大学と連携し、金型の表面加工技術開発を半導体産業へ応用するなど、目標3件に対し結果3件で達成率100%でした。

非対面型情報提供の向上として、YOUTUBEでのセミナー配信などホームページのコンテンツ強化を行い、訪問者数は目標4,660人に対し実績13,069人で達成率280%、満足度調査は目標80%に対し、実績78%で達成率98%でした。

【森岡会長】

説明は終わりました。ご質問、ご意見はありませんか。

【瀬崎委員】

AIを活用した外観検査など最先端の情報提供は非常に大事だと思いますが、こういったものはどのようなルートで見つけてこられるのでしょうか。

【センター長】

メッセナゴヤなどの展示会でのベンダー様と名刺交換したり新聞などから、中小企業でも使えるようなソリューションをご紹介するようにしています。

【兼松委員】

成長産業分野への新規参入企業数で、産学連携に取り組まれている事例が3件ありましたが、このマッチングはどのようにされていますか。

【センター長】

こちらは、中部イノベネットを通じ、各企業の紹介ムービーを作成、発信したところ、各大学のコーディネーターから企業に合った先生をご紹介いただけました。また、芝浦工業大学については、同大学の先生がその技術に有名だと伺い、こちらから産学連携の窓口に問合せ、マッチングに至りました。

【瀬崎委員】

こういった産学連携をする場合、活用できる補助金などはあるのでし

ようか。

【センター長】

これに関する直接的な補助金はないのですが、検査などに係る小牧市補助金や経産省の Go-Tech 事業があります。ただし Go-Tech については、採択が厳しいということも聞いております。

【森岡会長】

システムのほうには大分形成されてきているのではないかと思います。

【矢橋委員】

コロナ禍においても地道に活動されて、着実に成果が出ていることが素晴らしいと思います。

【森岡会長】

他にご質問、ご意見はありませんか。なければ 2 の議題に入ります。事務局より説明を求めます。

【センター長】

今年度の方針と計画について、資料 2 に沿ってご説明いたします。

KPI については、昨年度の活動を受けて、成長産業への参入促進として産学連携の相談数 6 回及び専門家の相談数 3 社、新規事業展開の促進として昨年度のワークショップで参加いただいた企業の中からマクアケに 2 社出品、生産性革命の推進として IOT・RPA ワークショップを開催し、個別企業への導入支援を 2 社等行っていききたいと思います。

成長産業へのトランスフォーメーション支援というところで、企業様は新しいテクノロジーを吸収して成長したいが自社に研究開発部門があるわけではなく、一方、大学・研究機関では、現場のリアルな課題は何かという疑問がある為、そういった両者をマッチングして支援していききたいと思います。

また、検討段階ですが、企業様を支援していく中で新技術等を実装していこうとすると膨大な資金が必要となるため、外部のスタートアップ資金投資等と繋いだり、他の方法で資金支援ができる方法を模索していきたいと考えています。もし何か良いアイデアがございましたらぜひ教えていただけますと幸いです。

次に、新規事業支援で BtoB から BtoC へということで、小牧のモノづくり企業をブランド化、ふるさと納税とも連携して独自商品の開発支援をしていききたいと思います。

DX 生産性革命ということで、自社と似た身近な中小企業の事例紹介や

ChatGPT に着目して啓蒙活動を行っていきたいと思います。

予算としては、合計 36,001 千円で、内訳としては、基本的な人件費等として補助金 30,200 千円、専門家・アドバイザーとの契約、セミナー・ワークショップの開催、情報発信など産業成長促進支援委託として 5,800 千円となります。以上で、今年度の計画となります。

続いて、第 1 四半期の活動状況について、資料 3 に沿ってご報告いたします。訪問状況については、コロナが 5 類になったこととデジタル化支援補助金により、昨年度の約 1.5 倍となっております。

KPI については、成長産業への参入促進として産総研様と A 社様との産学連携支援、新規事業展開の促進としてマクアケに 2 社出していただいております。生産性革命の推進としては、後ほどご説明いたしますデジタル化支援補助金の確認書発行で 9 社対応しております。

セミナーについては、4 月 19 日に VR 技術を活用した工場現場への応用事例として開催し、アンケート結果ではほぼ満足頂いた結果となりました。

BtoC としては、2 件マクアケに出してござりまして、C 社様が「感動風鈴」として目標金額 200,000 円に対し 55 人、1,450,275 円の応援購入、D 社様は自動車シート製造技術を活用した「ポータブル座布団」として目標金額 100,000 円に対し 408 人 2,000,394 円の応援購入が集まりました。企業様からは、社内で BtoC への否定的な声もあったが、マクアケをきっかけにメディアから取材なども受けて、社内の雰囲気やマインドが変わり、やって良かったと聞いております。

次に、市の施策であるデジタル化支援補助金について、市からご説明いたします。

【事務局久田】

では、市から簡単にご説明させていただきます。

こちらは、プログラム概要版の 4. 具体的な取組み、取組み方針 2 の (17) にある今年度新たに創設された補助制度となります。

補助対象事業としましては、AI や IoT、RPA、クラウドサービスといったデジタル技術を導入して生産性向上を図る取組みで、補助対象経費は、その為に使用する機械装置の購入費やリース料、システム・ソフトウェアの構築費などが対象となります。補助金額としては、補助対象経費の 2 分の 1 で補助限度額は 300 万円となります。

補助金の申請状況ですが、お手元の資料のとおり、7 月末時点で 14 件、補助金額合計 26,576,700 円の申請を頂いており、当初予算に達したため、今年度分は既に受付終了としております。来年度に向けては、改めて制度設計を見直していきたいと考えております。この補助金については、事前にセンターに生産性向上に寄与するか確認いただいております。

では、内容についてセンター長からご説明いただきます。

【センター長】

具体的には様々な事例があり、製造業では、3D スキャナーの導入による品質保証や IOT を導入したシーケンサ更新による生産管理システムの構築、小売・飲食業では、予約管理システムやオーダーリングシステムの導入など幅広く生産性向上、人手不足解消に寄与するものがあります。担当の方からは、以前から導入の検討で止まっていたところをこの補助金によって後押しされ、導入できたと伺っております。

最後に、J-GOODTECH 企業マッチング活用状況について、私たちが支援をしている中で、プロフィール充実度がページ閲覧数、ニーズ提案数に繋がるということがわかったため、各企業様にはプロフィールの充実を促していきたいと考えております。

以上で、第1四半期の活動状況のご報告とさせていただきます。

【森岡会長】

説明は終わりました。ご質問、ご意見はありませんか。

【瀬崎委員】

ご説明ありがとうございました。昨年度に比べると活動量が非常に増えており、人員・体制としては大丈夫ですか。

【センター長】

主には、補助金の問合せ、訪問で増えておりますので、ずっと続くわけではないと思いますが、それを鑑みても増加傾向にはある為、効率的に働くよう意識しております。

【瀬崎委員】

J-GOODTECH のプロフィールの作成等については、専門家がアドバイス、支援を行っておりますので、ぜひご活用ください。引き続きよろしく願いいたします。

【兼松委員】

デジタル化支援補助金について、受付終了されたということですが、全てを受け付けて採択されたのでしょうか、それとも生産性向上などの効果によって採択するか否か判断されたのでしょうか。

【事務局久田】

こちらは、補助対象経費が 100 万円以上を見込むものについては、市

への申請前にセンターにて確認書を発行しておりますが、その段階で当初予算を超えることが判明したため、その時点で問合せ頂いていたものは流用にて対応いたしました。

また、企業アンケートでは、各企業様はまだそこまでDX化に前向きではないという結果でしたが、蓋を開けてみると当初の予測よりもニーズが高かったため、来年度はそれも踏まえて検討していきたいと思えます。

【兼松委員】

DX化は、企業によって意識やレベルが非常に異なり、本質を掴むことに我々も苦労していますが、センターは地域の中で活動し、具体的な情報を持っていることが非常に強みだと感じました。

また、資料2のP.5にある連携機関にあいち産業機構も入れていただけると嬉しいです。

【矢橋委員】

これだけ支援企業の実績が出てきているので、次のステップとして支援企業の成功事例の見学会や同じ目線で同じ悩みを持つ支援企業同士の交流会などを企画されても良いと思えます。

【センター長】

ありがとうございます。今年度のワークショップでは、昨年度DX化を行った企業の見学会も行おうと考えておりますので、頂いたご意見を元に進めてまいります。

【矢橋委員】

また、やはり企業の根本的な悩みは、人材不足と教育不足により仕事があってもできないということですので、そういったところからスタートしてDX等の支援をしていっていただきたいと思います。

【森岡会長】

中小企業の特許については、知財戦略として取得したら終わりではなく、大企業に専用実施権等を与えて上手く提携するという特許の守り方もあるので、弁理士と連携してそういったセミナーを開催いただくこともご検討いただきたいと思います。

また、デザイナーを入れて新商品開発支援をされたということで、次のステップとしてビジネスモデルと一緒に考えていくということもできる段階にきていると思えます。

【兼松委員】

特許の活用については、会長が仰るような問題点がございまして、機構に特許活用コーディネーターという専門家もおりますのでぜひご活用ください。

【森岡会長】

矢橋委員が仰ったように、中小企業の方同士が交流することで、気づかないことが新たに生まれるシナジスティック・アウトソーシングに結びつけていけると思います。

他にご質問、ご意見はありませんか。

では、3のその他としてご意見等はありませんか。

なければこれで議事を終了し、事務局にお返しいたします。

【事務局久田】

お疲れ様でした。本日の委員の皆様のご意見については、こまき新産業振興センターのほか、運営に関わる市、小牧商工会議所でも共有し、今後の運営に活かしていきたいと思えます。

本協議会は毎年1回程度の開催を予定しております。次回の開催にあたっては、事務局より改めて日程調整をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

それでは、以上をもちまして、令和5年度こまき新産業振興センター運営協議会を終了いたします。

本日は、長時間にわたり、ありがとうございました。